

JALサンライトの挑戦

今年、障がいのあるバリスタたちが技を競う熱い戦いで、JALグループのJALサンライト(JSL)チームが、ついに頂点に輝きました。過去3度の大会で流した涙を乗り越え、4度目のチャレンジでつかんだ栄冠——「チャレンジコーヒーバリスタ」大会で、見事優勝を果たしたのです。

Embrace our
Challenge JAL

JALが取り組む新しい空への挑戦を皆さんにお伝えします



生き生き働く多様な社員

挑戦が磨くおもてなしの心

JALの翼 多様な人財が支える

1995年の設立以来、JSLは障がいのある社員と共にグループの多様な業務を担い、JALの翼を支えています。航空券類の審査、空港・機内関連業務、客室・運航乗務員のサポート、JALグループの総務サービス、さらに社内カフェ運営、農園事業、靴磨き(シューキャイン)にマッサージ、ネイル施術まで。

近年では、羽田・成田空港にありJAL国際線ファーストクラスラウンジにおいて、ご搭乗のお客さまに向けたコーヒーハンドドリップや、英国ジョンロブ社監修の靴磨きサービスを担当。専門知識



6.JAL東京オフィス内の『シューキャイン Briller(ブリエ)』にて大会への練習を重ねた石原(右)と澤田。「旅先でたとえ俯くような瞬間があっても、輝く足元を見て自信を取り戻していただけるように」との願いを込め、JAL国際線ファーストクラスラウンジでも靴を磨いている。7.8.羽田空港JAL国際線ファーストクラスラウンジの靴磨きサービス。



SHOE SHINE

と繊細な技、ひたむきな情熱で、多くのお客様からご好評をいただいている。

技を磨き、己を磨く

JSLの社員は社内の枠を超えて、自らの技を磨くための各種大会にも積極的に挑戦しています。凄腕のシューキャイナーが各地から集う「SHOESHINE GRAND PRIX」には、昨年に統いて2度目の出場となる石原稜大と澤田一敢が今年もエントリー。最高の輝きを引き出す技と、お客様を魅了するプレゼンテーションを競いました。惜しくも決勝進出は叶いませんでしたが、大会で得た学びと手応えを胸に、さらなる高みを目指す決意を固めています。

また前述の「チャレンジコーヒーバリスタ」では、3度の悔しい敗退を喫しながらも挑戦を続け、今秋初優勝。「まず何よりもお客様においしいコーヒーを飲んでいただきたい」という思いで重ねた練習と、仲間たちの支えが、勝利への道を拓きました。

誰もが輝ける社会へ

国連総会で「障害者の権利宣言」が採抲されて今年で50年。日本で



8



1.大会で優勝したJSLチーム。左から矢野亮、村上慧樹、久田斐己、松原聖一、細井日菜。2.お揃いのプローチは細井の作。3.「その調子!」と声を掛け合う。4.5.羽田空港JAL国際線ファーストクラスラウンジのコーヒーハンドドリップ。



1



COFFEE BARISTA



5

4

は毎年12月3~9日までの1週間を「障害者週間」と定め、多様な障がいへの理解を促しています。

JALグループでもこの期間を『JAL心のバリアフリー週間』とし、障がいによる制約をなくすための意識啓発や研修などを行っています。

全ての社員がそれぞれの個性を羽ばたかせて輝ける社会へ。それがJALグループの目指す未来です。今回の大会優勝は、その希望の光となりました。

JALグループはこれからも、一人一人が生き生きと輝ける世界を、皆さんと共に目指してまいります。S